

ビ ラ ー ン 通 信
— 24号 —

ビラーン族コミュニティー住民の医療を支えて5年

— 今後の課題 —

サムラング・コミュニティーに、常備薬を備えヘルスワーカーが常駐する小さなクリニック (Klawil Gutnga/ライフセンター) を建設し、その運営を支えることから始まった当会の活動は、本年7月で丸5年になります。現地でこの Klawil Gutnga の運営にあたる CMB (Catholic Mission to the B'laans) が、その拠点を G.サントス市に移した3年目からは、当会の医療支援も、病院へのアクセスに便利な CMB 本部に併設した新クリニック (常勤は助産婦ジョジョ) を通じて実施しています。医療活動の対象も、サウスコタバト、サランガニ2州5市町村山岳部の10余りのコミュニティーに拡大し、一方でサムラング・クリニックは、子どもたちの回虫駆除に、山から山へと大活躍のヘルスワーカー・リジャの存在と、小さいながらも唯一医療専用の建物があることから、最も重要な地域医療拠点として機能しています。

簡易水道建設 (5地域、うち1箇所は ICECK 資金)、医療相互扶助制度 (グリーンカード) の普及、薬草の栽培と利用指導も平行して実施されていて、対象地域の罹患率、死亡率減少に多少なりと貢献できたと考えていますが、それを数値で確認する評価作業はまだ実施していません。

今後の課題としては、

- ① 医療支援の成果を、CMB 及び現地行政機関の協力を得て数値的に評価し今後の活動に生かす。
- ② グリーンカード普及度、多目的住民組合の機能評価などから、医療自立への見通しを立てる。
- ③ 現地の医療支援 NGO や、保健行政機関との協力関係を探る。

医療に限らず、活動全般にわたる評価作業は、法人化した今、一層責任ある活動のために欠かせません。必要な人的、資金的基盤の強化にも努めたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(会代表/ 山崎)

— CMB クリニック責任者ジョジョの報告 (9-11月分) より —

<p>避難民130名対象の巡回診療(11/3)</p> <p>政府軍とイスラム分離派ゲリラとの衝突により、住民に犠牲者が出たバサグ・バランガイの避難民 (10月26日から公立小学校で避難生活) からの要請を受けて、CMB は地区担当のルーイ神父と医療チームを派遣し、食糧及び必需品を支給した。幸い11月末には事態が沈静化したため、住民もそれぞれ通常の生活に戻った。</p>	<p>入院支援記録より</p> <ul style="list-style-type: none"> * 呼吸困難が続いたキアミの2歳女兒(9/8) * 風邪をこじらせたアトゥモックの1歳女兒(9/14) * 異常分娩のバリテの28歳の女性(9/18) * 下痢と脱水症状のキアミの8ヶ月男児(11/13) * マラリアのキアミの50歳男性(11/25) * その他を含めて入院患者は合計11名。
<p>レオ君おかげで順調に回復しています</p> <p>キアミのレオポルド (10歳) は、9月下旬に HANDS の特別医療支援決定を受けて、設備の整った私立エリザベス病院に検査入院。ネフローゼ症候群と診断され、小児腎臓病専門病院での入院治療、さらに CMB クリニックに滞在して、1週間の通院治療を受けた。10月中旬過ぎの検査結果は良好で、キアミに戻ることが許され、その後は定期検査と投薬治療のため、キアミとジェネラルサントスを往復している。</p> <p>(レオ君特別支援にご協力ありがとうございました。詳細は P4 の寄付欄をご覧ください：事務局)</p>	 <p><定期検診にキアミから来たレオ君。左はジョジョ> G.サントスの CMB クリニックにて [10月末]</p>